

1 単元名 蜘蛛の糸—人間のエゴイズムを読む—（芥川龍之介）

2 単元設定の背景

教材観

本教材は、「釈迦がせっかく救いの手を差し伸べようとしたにも関わらず、犍陀多が無慈悲であったために罰が当たり、再び地獄に落ちてしまう話」と要約できるが、確固とした因果応報の枠組みのうちに解釈が安定することはない。なぜなら、「恣意的で無責任・残酷な御釈迦様」という視点を獲得すれば、物語は異なった相貌を見せるからである。因果応報という、教条的な解釈の枠組みを打ち崩すことは、学習者の知的好奇心を刺激し、主体性を喚起するだけでなく、「深く読めた」という手応えを得ることができるのではないかと考える。

生徒観

意欲的に学習に取り組み、「読むこと」の授業では、様々な表現を根拠に読みを深めることができる生徒たちである。一方で、授業中発言する生徒に偏りが見られるなど、国語の授業で活躍する生徒が固定化されつつあるという問題を抱えている。物語とは、様々なレベルの矛盾や空所、難読箇所、解釈の分かれる箇所を多く抱えるものであり、普段口の重い学習者も自分の考えを述べやすい題材である。そこで、単元の中で文章を読み深めるために討論を実施し、教室全体に向けて自身の読みを示すことができる生徒を育てたい。

学習集団観

自分たちが持つ学習課題を明確にし、課題に協働して取り組むことで、新たな読みを作り出す授業集団をめざす。そのために「質問づくり」の方法を示し、読みを深めるための質問について考えさせる。加えて、教室内の討論を活性化させるために、「スパイダー討論」を導入する。文章読解の過程でスパイダー討論を繰り返すことで、協働して読みを深めていける学習集団を目指す。

指導観

指導にあたっては、OPPシートを活用し、各時間に自分の読みを記述していく。加えて、各時間に他者と交流して発見した内容を「今日の発見」という形で記述していく。OPPシートは毎時間授業後に回収し、指導者がコメントを付して返すことで、各学習者が読みを深めるきっかけを与える。また、教室内でOPPシートを回し読みすることで他者と読みを交流していく。授業での学びを1枚のOPPシートに記述し続けることで、単元によって変化した自己の認識を把握することができるようにする。さらに、学習内容を現在・過去のものに関連付けたり、一般化したりすることで学習内容を今後の学習にも活用できるようにする。

3 単元の目標及び計画（全5時間）

■単元の目標

「蜘蛛の糸」を読むための課題を自ら設定し、課題解決に向けた討論の中で他者との交流し、読みを深めることを通して、文章を読むための課題発見、課題解決ができるようにする。

■単元の計画

- 第1次 スパイダー討論の方法を学ぶ。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
 第2次 設定された学習課題に取り組むことで「蜘蛛の糸」を読み深める。・・・・・・3時間（本時3/3）
 第3次 作品の主題についてまとめ交流する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
登場人物の描写について、語句の文脈上の意味を捉えた上で、文章の中ではどのような意味で使われているかを考えながら読んでいる。	様々な表現を根拠に登場人物について考えることにより、文章に表れたものの見方や考え方を広げている。	描写に注意して文章を読んだり、立場の違う人と文章について話し合ったりすることを通して、自分のものの見方や考え方を広げようとしている。

5 本時の学習

■目標 御釈迦様の行為や発言に着目し、作品が提示する問題について考える。

■「受容と共感を促す手立て」

個々の解釈の根拠を共有し合い、意見を伝え合うための議論の場を設定する。

■学習過程 ※ (全) (小) (個) : 学習形態 (全 : 全体の場合 小 : 小集団 個 : 個人) ㊦ : 評価の観点

学習事項	生徒の活動	教師の働きかけとねらい	(集 団)
1. 学習課題への接近	(1) 本時の学習内容を知る。	(1) 作中の主要な登場人物である御釈迦様に着目していくことを伝える。	(全) 本時の学習への興味・関心を引き出す。
2. 学習課題の設定	(2) 本時の学習課題を設定する。 御釈迦様に慈悲の心はあるか。	(2) 本時の学習への意欲をもたせる。 ・課題は学習者が作成した質問から設定されていることを示す。	(全) 学習課題を共有化させる。
3. 学習課題の追求	(3) 本文テキストの表現を頼りに、御釈迦様の行為について考える。 ・たまたま眼に止まった犍陀多を救済しようとするのは無責任ではないか。 ・犍陀多には試練を与えたのではないか。 (4) スパイダー討論を行う。 ・なぜ釈迦は犍陀多を救おうとしたのか。 ・そもそも犍陀多を救う気があったのか。 ・犍陀多に課せられた試練は達成可能なものであると言えるのか。 (5) スパイダー討論の結果を発表する。 ・御釈迦様には慈悲の心がある。 ・御釈迦様には慈悲の心が無い。	(3) 個人でワークシートに自分の解釈を記入させる。 ・ワークシートには個人解釈を記入する際に、どの部分に着目しているのかを記入させる。 ㊦生徒の OPP シートには、読みを深めるきっかけとなるコメントを付しておく。 (4) 他人の読みで良いと思った部分をメモさせる。 ㊦討論中は、教員が介入せず、自分たちで話し合わせる。 ㊦様々な根拠をもとに自分たちの意見を述べているか。 (5) 討論の結果を構造的にまとめる。 ・まとめる際には、御釈迦様を与えた試練を中心にまとめる。	(個) 自分の解釈を記入させる。 (小) 周囲でこれまでの自分の解釈を記入させる。 (小) → (全) 班ごとに意見を交流させた後に、全体で発表させる。
4. 本時のまとめと次時への発展	(6) 本時の学習内容をまとめる。 ・学習課題に対する個人の意見を記入する。 ・本時の学習を通じた発見を記入する。	(6) 本時のまとめを行う。 ・本時の課題について自分の考えを OPP シートに記述させることで、学習内容につながりをもたせる。 ・本時の学習を通しての発見を「今日の発見」という形で記述させることで、学びをメタ認知させる。	(個) 次時への見通しをもたせる。